平成 26 年 8 月豪雨災害に関する国土地理院の対応
Responses of GSI to the heavy rain disaster in August 2014

企画部　防災推進室
Planning Department Disaster Management Office

要　旨

国土地理院は，大規模自然災害の発生時において救命・救助活動及び復興に寄与するため，関係機関へ地理空間情報の提供を行っている。平成 26 年 8 月豪雨についても，国土交通本省をはじめとする関係行政機関（以下「関係機関」という.）からの要請に応じて地理空間情報を提供した．本稿ではその取り組みについて報告する.

1.　平成 26 年 8 月豪雨の概要

平成 26 年 8 月豪雨（以下「8 月豪雨」という.）は，台風第 12 号及び台風第 11 号が相次いで接近するとともに，前線が日本付近に停滞し，暖かく非常に湿った空気の流れ込みが継続したため大雨となり，日本各地に甚大な被害をもたらした（図-1）．特に広島県広島市では, 8 月 19 日から 20 日明け方にかけ，1 時間降水量，3 時間降水量及び 24 時間降水量が観測史上 1 位の記録を更新する猛烈な雨となり，広島市北部の安佐北区や安佐南区の住宅街を中心に多くの土砂災害が発生し, 死者 74 名の被害をもたらした（図-2）.

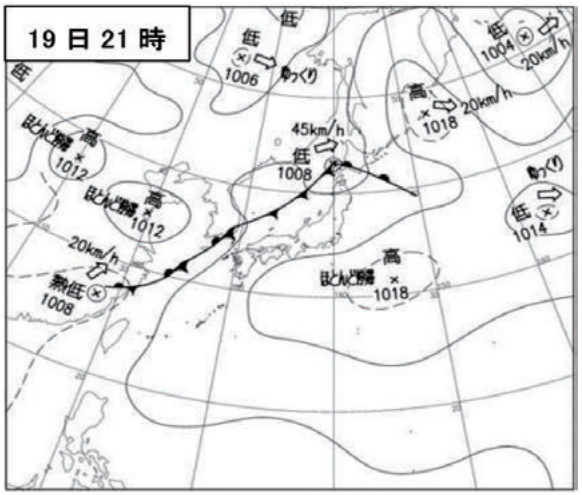

図-1　平成 26 年 8 月 19 日 21 時の天気図
（広島地方気象台　8 月 20 日 14 時現在の気象速報より）

図-2　広島市の土砂災害

2.　国土地理院の主な対応

8 月豪雨に関する国土地理院の対応は,台風 12 号・11 号の大雨等による被害に対応する 8 月 3 日の注意体制から始まった（表-1）．台風による体制を一時解除したものの, 8 月 20 日に広島市の土砂災害に対し, 8 時 21 分非常体制に入り,8 月豪雨の対応を実施した（図-3）.

図-3　災害対策本部会議

8 月豪雨における対応は連続して発生した自然災害に対応するもので，各災害時における対応の概要は以下のとおりである.

2.1 高知土砂災害等の対応

8 月 13 日に測量用航空機「くにかぜⅢ」（以下「くにかぜⅢ」という.）により高知県北川村について，斜め写真及び垂直写真の緊急撮影を実施し，応急・復旧のため，関係機関へ提供した.

2.2 兵庫及び京都土砂災害等の対応

16 日から 17 日にかけ，西日本を中心に降った豪雨により，兵庫県丹波市，京都府福知山市で土砂災害及び浸水被害発生し，19 日に「くにかぜⅢ」により緊急撮影を実施した．

2.3 広島土砂災害等の対応

8 月 20 日に広島市で土砂災害が発生したとの一報を受け，現地の被災状況を確認するため，「くにかぜⅢ」により，同日被災地の斜め写真（図-2）を撮影し，関係機関へ提供した．

また，広島土砂災害においては 8 月 20 日に政府の現地対策本部が設置され，国土地理院から本部員 1 名，リエゾンとして専門家 11 名（述べ 22 名）を派遣し，現地活動における地理空間情報の提供要望にこたえ，災害対応に貢献した（図-4）．

図-4　広島市災害対策室

2.4 北海道土砂災害等の対応

8 月 24 日に発生した北海道地方の記録的大雨により，礼文島（礼文郡礼文町）において土砂災害が発生した．この災害においては 9 月 3 日に垂直写真を撮影し関係機関への提供を実施した．

2.5 各部の対応

8 月豪雨における各部の主な対応は，以下のとおりとなる．

1) 基本図情報部
   「くにかぜⅢ」による垂直写真，斜め写真の撮影及び提供する画像データの作成
2) 応用地理部
   写真判読図の作成
3) 地理空間情報部
   作成した各種データのホームページ上での提供，3D 地図及び立体模型の作成
4) 地理地殻活動研究センター
   斜め写真からの正射画像の作成
5) 中国地方測量部
   災害対策図等の提供

3. まとめ

国土地理院は，災害対策基本法の指定行政機関としての責務を果たすべく，今回の風水害はもとより今後発生が予想される東海地震や南海トラフ地震をはじめ，火山活動に対しても万全な体制を備える所存である．

最後に本災害において被災された皆様方に心からお見舞い申し上げる．

（公開日：平成 26 年 12 月 26 日）
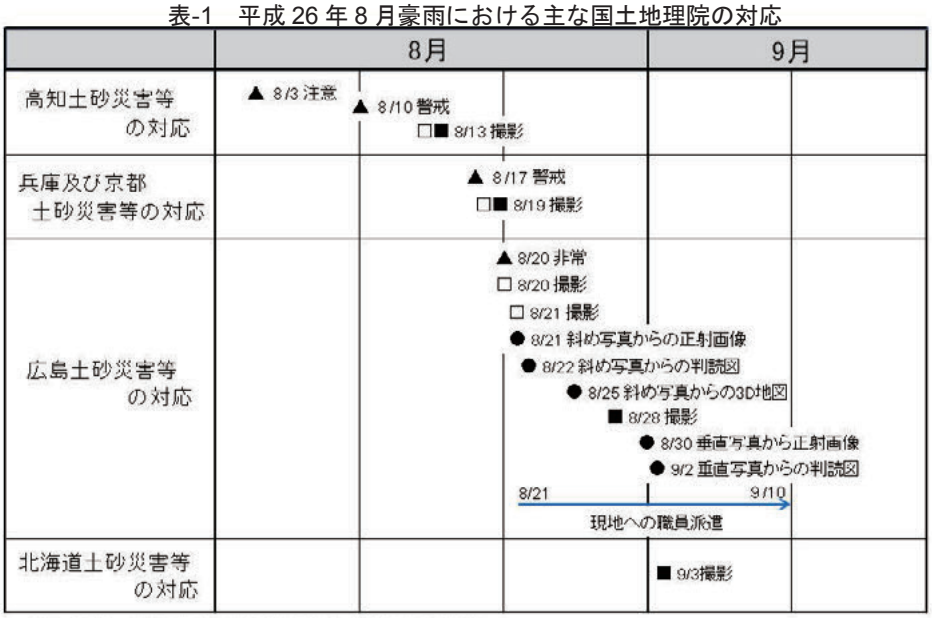
表-1　平成 26 年 8 月豪雨における主な国土地理院の対応